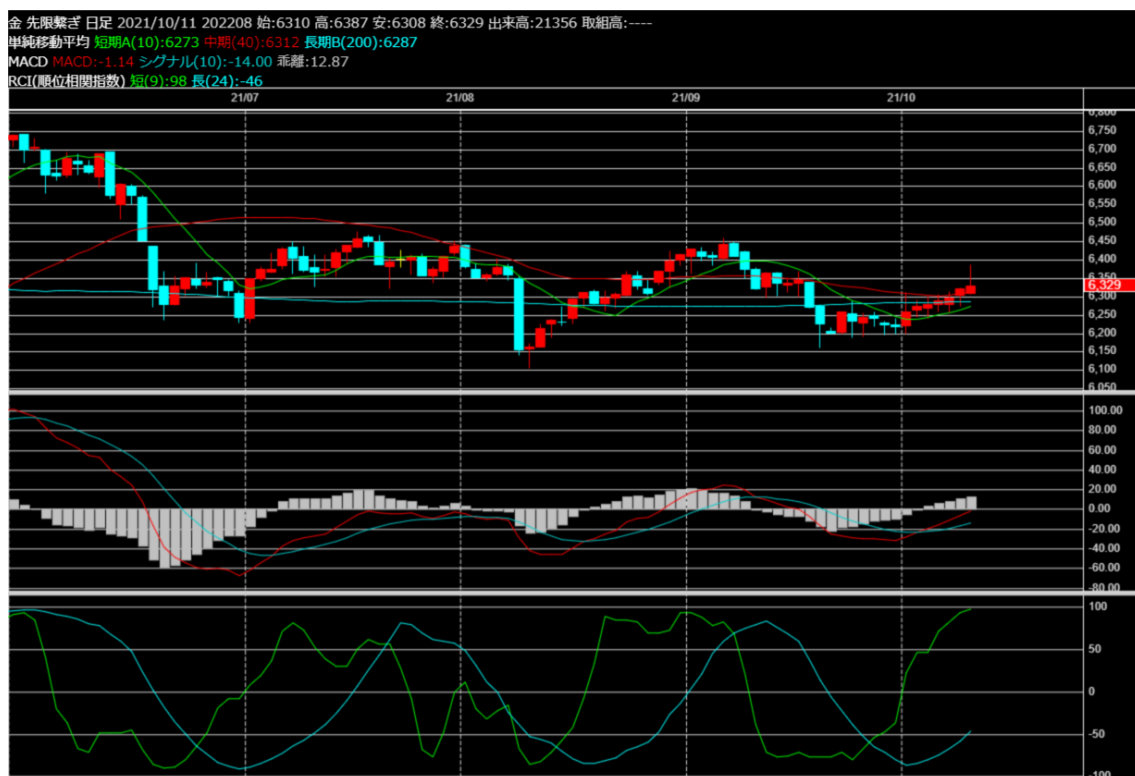


＜金標準先物、米国債の金利高で円安効果を受けて 6400 円へ・・・＞



(出所：オアシス)

9 月の FOMC で 11 月のテーパリング開始の宣言を示唆した事を受けて、10 年債金利は 1.3%から 1.6%へ、NY 金は 1778 ドルから 1757 ドルで推移し、為替は 109.15 円から 112, 24 円と円安が進んでおり、円建て金標準先物は 6203 円から 6329 円で推移している。そのため市場は、テーパリングの要因を受けて金利高＝金価格の下落を想定するが、現実には 0.3%の金利上昇を受けて、為替は 3 円のドル高：円安を演じながら、NY 金は 20 ドル安を示しているが、金標準先物は円安効果が強く 120 円の上昇を見せている。特に米国における債務上限問題や原油高に伴うインフレ高、中国に存在し続けるデフォルトリスクなど、逃避の需要が高まる要素は存在し続ける状態でもあり、金価格を金利高だけで論じる事は難しく、また金利高は米国債でありドル建て金には悪影響となるが、円建て金には好都合の要因となっている。そのため米国のテーパリング要因が高まる、13 日の FOMC 議事録公開を受けて 6400 円を試す値動きに注目したい。

(2021 年 10 月 10 日記載)

＜テクニカル＞

金標準先物の日足を MACD と RCI で見ると、MACD では **MACD** と **シグナル**が上昇を続けながら、RCI では**短期**が+98%まで上昇しているが、**長期**が-46%で上昇を続けており、8 月から 9 月に掛けて高値追いを続けたテクニカルの動きに類似しており、強気の域の中で推移していると予想される。